

## 「ならなぎ よりみちクラブ」活動報告

報告者： 上森 節子

日時	2023年3月22日(水) 9時45分～14時30分	天候	快晴	コース名: 第37回よりみちクラブ
案内団体 又は催事名	元明・元正天皇陵から左保路を巡る		人数	大人:18名

集合:近鉄・奈良駅 行基前 9時45分

ガイド:山下様(ならなぎ会員)

行程:近鉄奈良駅9:53 13番バス乗り場より乗車～奈保山御陵降車～奈保山東陵～奈保山西陵～

七ツ岩～黒髪山稻荷～奈富山の墓～大仏鉄道黒髪T跡～鴻池ロートスタジアム(昼食)～藤原不比等顕彰碑～  
大仏鉄道遺構～興福院～狭岡神社～業平供養塔～不退寺～近鉄新大宮駅

出席者:久賀田・玉尾(ひ)・服部・村上・義田・福島・澤井・武田・上森・竹山・米田・森

嶋村・山下(裕)・山田(勝)・堀内(け)・寺尾・中谷 (18名)

9:53 高円町北出口 13番バス乗り場から奈良交通115系統、高の原行きバスにて奈保山御陵まで移動。

10:00 奈保山東陵(元明天皇陵)

すでに暑くなっていたので上着を脱ぎ、ウグイスのけん制を聞きながらオオイヌノフグリ、タンボボの咲く道を進む。元明天皇は天智天皇の第4皇女で天武天皇の皇太子草壁皇子の妃、文武、元正、吉備内親王(長屋王の妃)の母。721年に崩御、「華美な葬儀を戒め房良峯(やらのみね)で火葬し、古墳を築かず、火葬所を山稜とし常葉の樹を植え、刻字の碑をたてること」を命じた。火葬はすでに持統天皇の例があるが、古墳を築かないのは元明天皇に始まる。江戸時代の考証ではウワナベ古墳が元明天皇陵とされたが、遺詔の刻字の碑が江戸時代に出土したことでも元明天皇陵と治定された。

10:20 奈保山西陵(元正天皇陵)

元は元明天皇陵と隣り合って自然の地形の丘であったが道路を通したので現在の様になった。第44代元正天皇は、母の元明天皇のあと、弟の文武天皇が若くして夭折したことから(その子、首人が幼く15歳であったのでつなぎの天皇として)35歳で即位した。美貌の女帝で生涯独身として過ごしたという。丁度、岐阜の養老町の観光協会の使者が正装で神事を行っているところに出くわした。養老町に親孝行な子供の話を聞き、当地へ行幸した元正天皇が若返りの滝の水を知り元号を「養老」としたという。滝の水を親孝行の木こりがひょうたんに汲んで父親に飲ませたら若返ったと言う物語が今も伝わっている。毎年ひょうたんに養老の水を汲み献上しに来られているとのことであった。私たちは、養老の滝と言う安い居酒屋に学生時代に行った話で盛り上がる。

11:00 七ツ石(ななついわ)

奈良ドリームランド開発時に黒髪山の西が破壊され大黒芝から掘り出された石碑だとか。藤原宮子は文武天皇の妃で藤原不比等の娘。754年逝去、大黒芝で火葬にされたが陵墓と治定されることなく建設で破壊されてしまった。

11:05 黒髪山稻荷神社

奈良豆彦神社の末社、境内に奇妙な石造物が置かれている。前から見たらイノシシ、横から見たら魚。周辺は農村であったことから水に関わる信仰が行われてきたようだ。稻荷神社となった謂われは、開化天皇の孫の狭穂彦と狭穂姫という兄妹がおられ、妹は垂仁天皇の皇后になっておられた。天皇位を狙っていた狭穂彦は妹に寝ている間に天皇を殺すようにそそのかしたが、姫にはできなかった。流した涙で天皇は目を覚まし、企てが露見し天皇は狭穂彦討伐の軍を起こし、狭穂姫は兄の軍に走る。その時姫は天皇の子を身ごもっていた。妃を愛していた天皇が攻めあぐんでいるうちに、姫は稻ゆぎ(稻を積んで造った応急の城)の中で皇子を生めた。姫は皇子に「誉津別命(ほむつわけのみこと)」と名付け天皇方にお渡しし、自らは追っ手から逃れるため、黒髪を切り山にうめて逃げた。このことから、この山を黒髪山と呼ばれ、稻城の古事から五穀の神「保食の神」を勧請し、転じて稻荷になったと伝わっている。知れば知るほど興味深いドラマチックな話が続く。

11:15 那富山ナホヤマ墓(基親王墓)

聖武天皇の皇太子、基親王の墓、生後 33 日で皇太子となるが、1 歳で病死する。大黒ヶ芝古墳ともよばれる。10メートル程の円墳で周辺には「隼人石」、「犬石」、「七匹狐」と呼ばれる、獣の身体と人の身体を持つ石像があるらしい。立ち入れないので残念！見ることができない。

11:30 大仏鉄道黒髪山トンネル跡地

1898年に加茂と奈良を結ぶ「大仏鉄道」の建設で86メートルのトンネルが掘られた。しかし急所、難所のため、わずか9年で廃線。1966年頃、道路拡張で切り通しとなりトンネルは姿を消した。上には黒髪橋が架けられた。開業当時は名古屋方面からの大仏参拝でにぎわっていたそうだ。村の古老の話では坂が急なので、立ち往生し、乗客が降りて押したと言う。二等、三等の乗客が降りて押していたのでは？の話に、全員が笑った。そろそろ、お腹もすいてきたので昼食場所へ移動。

11:40 鴻池ロートスタジアムにて昼食。スマホのアプリで WBC の速報や実況中継を見ながらのお弁当。

村神様と大谷の活躍や勝利の速報を聞き、あちこちで歓声が上がる。お昼時でガイドの邪魔にならず良かった。ジャパンチーム有難う！皆が元気になった。

12:20 藤原不比等の顕彰碑

顕彰碑は昭和54年に建立。不比等の墓がこのあたりにあったのではと言われている。

小山に上がると、興福寺の伽藍が見渡せ、諸説あるが、この地で間違いないのではと思わせる景色がひろがっていた。モクレンが満開。しばし眼下に広がる外京の景色を楽しむ。

12:40 興福院

奈良時代創建で僧院として隆盛したが、以後衰退。元々は平城京の右京四条二坊、近鉄尼ヶ辻駅近くにあった「弘文院」を前身としたと寺伝では伝わっており、現在の地に尼寺として再興されたのは徳川家綱の時代。参道は家綱が造らせたもので、一条通りから興福院に延びる道は桜並木で大変美しい。少しまだ早かったのでちらほら咲きではあったが風情はすばらしかった。

丁度、門前で尼さんと出会い前庭にはいらせてもらえたのは、ラッキーだった。我ら団体が歴史を愛する上品なグループだと思ってくれたのだと善意の解釈をして、しっかりここで、記念撮影をする。

小堀遠州作庭という客殿の庭園は、春日山や三笠山を借景にした風情のあるものでツバキ、サツキの季節は特にすばらしいという。本尊は阿弥陀三尊。中尊の阿弥陀如来座像は、親指と薬指で輪を作つておられ、眼鏡か？無限か？と興味をかき立てられるが下品中生の印相の珍しい仏像だそうである。是非お目にかかりたいものである。大門は江戸時代の寛永年間、四脚門、切妻造本瓦葺。

かえる股に龍虎、龍虎門とも呼ばれる。大仏鉄道の駅は興福院の前から大仏鉄道公園までが駅で鉄道開業時には寺で祝賀会を行ったという。

13:20 長慶寺

13:40 狹岡神社

715年藤原不比等が佐保殿の丘上に天神八座を祀った事が始まり。今は佐保一円の氏神。

狭穂姫の姿を映した姿見池等があり、狭穂姫伝承の舞台

13:50 若草山を望むビューポイント 給水タイム

14:00 業平供養塔

14:10 不退寺

正式には不退転法輪寺、不退寺または業平寺と略された。平城天皇が仮住まいした。

子の阿保親王とその 5 男在原業平が暮らす。業平が嵯峨天皇の子、仁明天皇の詔を受け 847 年御所を寺に改めて、業平自ら聖觀世音菩薩立像を刻んだという。サクラ材の一木造、頭部には、リボンのようなものが着いている特徴あるお姿。他に五大明王像、地蔵菩薩立像、阿保親王座像など。

14:30 近鉄新大宮駅まで歩いて解散



#### 所感等

2日前まで絶望的な予報が、WBCの試合のごとく大逆転した。真夏日のような気温の中、参加者は楽しそうにガイドの話に耳を傾け、咲き始めた桜や野の花、景色を楽しんだ。元明、元正、基皇子の眠る墓を見学し益々奈良の歴史への興味がふかまつたことであろうと思う。よりみちクラブは楽しく親睦を深め先輩後輩が仲良くできる場であると思うので、もっと新会員にも参加して欲しいと思った。

#### (特記事項)

会員の高齢化が進み気温が高くなると、行程が長いと体力の続かない人も多くなる。

今回は町中でもあったのでバスもあり、JR組はバスを使えたが、今後も下見をしっかりして、計画を立てなければと思う。